会　議　録

会　議　名	平成２８年度第４回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　務　局	市民部　コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開　催　日　時	平成２９年１月３１日（火）１８時３０分～２０時００分		
開　催　場　所	市立はけの森美術館　多目的講義室		
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長 上原佐世子委員 川﨑京子委員 小林正隆委員 平岡良一委員		
欠　席　委　員	山村仁志委員		
事　務　局　員	コミュニティ文化課文化推進係　　吉川、永井 同　　はけの森美術館学芸員　鈴木、中村		
傍　聴　の　可　否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数	０人
会　議　次　第	（１）事業実施報告等 （２）平成２９年度事業予定について （３）意見交換等 （４）その他　次回日程調整等		
会　議　結　果	別紙のとおり		
会　議　要　旨	別紙のとおり		
提　出　資　料	（１）開催した展覧会・ワークシップ等及び今後の予定 （２）平成２８年度年間スケジュール （３）ワークショップ等アンケート結果		

平成２８年度　第４回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成２９年１月３１日（火）

【鉄矢会長】　　では、平成２８年度第４回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催したいと思います。

では、配付資料の確認をします。

【中村学芸員】　　では、私のほうから資料の確認をさせていただきます。

まず１枚目に、今回の委員会の次第がありますので、こちらのほう、ご確認ください。

資料につきましては、まず、資料１。次に資料２が後ろについていて、ちょっとずれておりますけれども、資料２が展覧会、年間のスケジュールになっております。こちらがＡ４の１枚ですね。それで真ん中に挟まっているのが資料３になっていまして、資料３のほうがＡ４で２枚ございます。こちらがアンケートのほうになっていますので、これはこの後の報告の中で、それぞれ内容を説明させていただきます。

【平岡委員（館長）】　　それ以外に、最後に皆様にご説明を予定しておりますが、会議録の校正のご案内。また前回の展覧会のときの小冊子を皆様に資料としてお配りしております。

【鉄矢会長】　　はい。ありがとうございます。

では、次第の１、事業実施報告等の（１）開催した展覧会・ワークショップ等について、事務局から説明をお願いします。

【鈴木学芸員】　　はい。では、学芸員の２人でお話しするような形になるんですけれども、お願いいたします。

まず、展覧会ですけれども、企画展「開館１０周年記念　風景への視線―郡山市立美術館所蔵近代イギリス風景画展」が１０月７日から始まって、１２月１８日に無事に終了いたしました。

この展覧会は、前回、ごらんになっていただいたかと思うんですけれども、１８世紀、１９世紀のイギリス人の画家たちが描いた風景画の作品を、郡山市立美術館からすぐれた名品をお借りして展示いたしました。

最終的に、お客様の数は大人が１,８９１人、子どもが５９１人で、大体２,５００人弱の人数になりました。

この展覧会は暫定予算の影響で、展覧会の準備が遅れ、小冊子の作成が遅くなり、また、広報物も遅くなったりということがあったんですけれども、最終的には、多くのお客様に来ていただけたので、とてもよかったなと思っています。

関連企画としましては、イベントでギャラリートークを２回、１０月１６日と１２月４日に２回行いました。初回は８人だったんですけれども、２回目は人数が多くなりまして１５人になりました。お客様の質問に答えたり、いろいろお話することもできましたので、とても充実したギャラリートークになったのではないのかなと考えています。

また、２つ目のイベントとしては、親子向けのイベントで、鑑賞＋創作プログラムというのなんですけれども、「～ぐんぐんふくらむ　みる・つくる楽しさ～アート・キューブであそぼ！」というワークショップを行いました。これは藤田百合さん、赤松千佳さん、妹尾喜久子さんという、「えほんとあそぶアートのおうち」というユニットの方に講師を務めていただきました。ちょっとスライドを見ていただければと思うんですけれども、最初に絵本の読み聞かせをした後で、郡山市立美術館と福島県立美術館が開発したアート・キューブという鑑賞用の補助教材を用いて、展示室の作品をみんなで楽しく見ていったりするというような内容になりました。

アート・キューブというキューブ状になった鑑賞用教材が、１つの大きなかばんみたいなものに入っていまして、いろいろ作品を見る手がかりになるようなものが複数入っているんです。このときは作品を見て、アート・キューブを手がかりに、これがどういうふうに見えるかーごつごつしているとか、やわらかいかとかー考えます。また、実際に版画の作品の前では、版画をつくる上で、凹版とか凸版とか、様々な版画技法があるんですけれども、版画のテクスチャーなどをアート・キューブで学んだ上で、じゃあ、作品はどういうふうになっているんだろうということを、みんなで楽しく考えます。　このように話し合って楽しく作品を見ていくことができました。

スライドには「キケロの別荘」が映っていますが、このように、アート・キューブというものをきっかけに、みんなで作品を楽しく見るというような形になりました。

このときは定員は１０組でした。参加者は１１人で、大人の方が５人、子どもの方が６人でした。

配付した資料に、このワークショップのアンケートがあります。資料３ですね。それを見ていただきますと、「とても楽しかった」、「こういうようなきっかけで作品を見ることができた」など、とても好意的です。「今回このワークショップに出て、とても充実した機

会を持てたのはよかった」というような意見が多かったので、手ごたえを感じました。

【中村学芸員】　では、教育普及事業のほうは、私のほうから報告させていただきます。

まず、教育普及事業１つ目、鑑賞教室ですけれども、これは前回のときにも報告させていただきましたが、市内各小学校の小学生たちが、こちらの美術館に来て展示を見るということで実施しているものです。前回の報告以降に、掲載してあるとおり６校の小学校が来ています。

こちらの小学校６校は、先ほど報告をしました「風景への視線」、企画展のところで来てもらったんですが、うち２校に関しては、先生からの希望があったので、事前授業というのを実施した上で館に来てもらうという形をとりました。緑小学校と本町小学校です。内容としては、こういった作品カードをあらかじめつくりました。　チラシの外枠を利用して、飾り枠みたいな形にして、その中に展示している作品の画像を入れています。これを事前授業のところで生徒に対して配って、ワークシートをやってもらいました。緑小学校と本町小学校、それぞれでワークシートの内容は変えて作成しまして、こちらが最初に行った緑小学校のほうのワークシートです。

こちらの緑小学校のワークシートに関しては、少し自分で実際に絵の中からいろいろ描かれたものを探してもらって、それでそこから発想を膨らませて、絵を描いてもらったりするというところをメーンにしています。ちょっと時間が足りなかったので、全てできなかったという子もいたんですけれども、得意な子だと、結構最後まで一気に仕上げてくれました。

こちらが本町小学校のほうのワークシートです。こちらの本町小学校に関しては、先生から少し時間の中で慌てて何か絵を描いたりとかするというよりは、じっくりと絵を見るということに専念するような形という要望があったので、絵を描くという作業は意図的に全部外して、絵の中から見つけたものを文字で書いてもらうというようなものにワークシートを少しつくりかえました。それから、小さいことですけれども、やはり名前を書く欄が欲しいという要望がありましたので、名前を書く欄というのもつけ足しています。

こちらのほうでは、文字でいろいろ書いてもらうという内容になっているんですけれども、少し天気だとか、そういう風景の中にある時間の流れみたいなものに着目して要素を探していってもらうというようなワークシートにしています。

鑑賞教室は、小学校によってその時々で、子どもの性格だとか全体的な空気というのは、それぞれだったんですけれども、やっぱり事前授業をやったところというのは、こういう

ふうに事前に作品カードで見ていた作品が、実際に来てみて実物があるということで、最初の作品カードでは、細かいところがなかなかわからなかったりしたものが、実際に展示室に来て、実物大の大きなものを見ることができて、それで印刷ではわからなかったところを改めて見て、こうなってたんだというようなちょっとした発見だとかというところがあって、すごく作品との距離という意味では、事前授業をやった小学校というのは、入ってきたときから小学生たちの距離感がすごく近い感じで始められるというところはプラスな点だなというところが印象としてありました。

ただ一方で、この展示の中で、６校がかなり詰まったスケジュールで、次々に小学生が来るというような形になりましたので、事前授業については２校だからこそ、こういうそれぞれの小学校のニーズに合わせてやれたというところがあります。もし、仮に６校全部が事前授業を希望して、それぞれのニーズに合わせて、それぞれのワークシートをつくるとなると、やはりこちらの対応できるところの限界というところが出てきてしまうかなと思います。そういう意味では、今後、この事前授業というのを、どういうふうにやっていくべきなのかというところは考えていくところかなと感じました。

２番目の職場体験学習ですけれども、こちらに関しては１月１８日から２０日にかけての３日間で、緑中学校から、１年生の職場体験学習ということで受け入れを行いました。

今年に関しては４名、男子の参加希望がありました。４名に来てもらって、この３日間の行程で、美術館の中でどういうことが行われているのかというのを、職場体験というか、勉強してもらうというような感じで実施しました。

休館中だということで、来館者の対応というのができない分、休館している美術館というのは、どういうことをやっているのかという、普通に来館した状態では見ることのできない、そういう裏側を知ってもらう。ずっと、ただ展示していて、その展示しているものを見てもらうだけの施設じゃないんだよというところを重点的に知ってもらうというような感じで、実施しました。

実は、この次の週、２５日から２７日にかけて、東中学校でも職場体験の希望が出ておりまして、３日間の行程で受け入れる予定でしたが、こちらの東中学校に関しましては、学校のほうでインフルエンザの流行があって、かなり病欠が出ているということで、直前に、インフルエンザに伴って職場体験の中止をするというような決定を学校でされたそうで、中止になりました。

この中止に関しては、中学生の生徒さんから、やっぱり職場体験やりたかったという要

望が出ているそうなので、一旦中止になったということではあるんですけれども、この後、本当にこのままやらずに終わるのかというところに関しては、学校のほうでも検討されているようで、まだはっきりしていないところになっています。

教育普及事業で実施した内容については以上になります。

【鈴木学芸員】　　あと、そのほかになりますが、（３）ですけれども、１月２８日の土曜日にギャラリーコンサートを行いました。１階の展示室で、カウンターテナーの眞弓創一さん、山下実季奈さんというチェンバロ奏者の方による演奏が行われました。ちょうどスライドのとおりなんですけれども、日本の歌曲から、またフランスのバロックの音楽のように、いろいろな曲をお２人に演奏していただいたという形でした。

このコンサート自体が大体１時間ぐらいだったんですけれども、そのコンサートが終わったら、喫茶棟のほうでお食事会というのがございました。それは、今回はお金をお支払いいただいて、お客様に音楽とおいしいお食事とお飲み物を楽しんでいただきました。とても充実したギャラリーコンサートになったのではないのかなというふうに考えております。

これまで開催した展覧会やワークショップ等については以上になります。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

何か質問、意見等ありましたら、お願いいたします。

ギャラリーコンサートは定員いっぱいになったんですか。

【平岡委員（館長）】　　そうですね。当日ちょっと、やはり季節柄、お休みというか。

【鉄矢会長】　　一応、満席で、満杯で締め切って、休んだ人がいたという。

【平岡委員（館長）】　　そうですね。

【鉄矢会長】　　わかりました。

これから楽しみですね。また食べることが。

大丈夫ですか。ご質問等ありませんか。

アート・キューブについて、もうちょっと、何をやったのか。何かおもしろいのをやったんですよというのと、とてもよかったんですよというのは……。どんな活動をして、何を見せて、どんなことして、どんなふうに引っ張ったんだよというのを、ちょこっとでも、一例でも挙げてくれると。

【鈴木学芸員】　　そうですね。そもそも「アート・キューブ」という鑑賞用の補助教材があるんですね。この前、チラシでお見せして、ごらんいただいたかと思うんですけれど

も、様々なキューブがあるんですね。トランクケースみたいなものに入っていまして、そこに、例えば、よくあるデッサン、人形、セロハンがあったりとか、例えば、版画だったら、エングレービングだとか、メゾチントの技法だとか、そういうのがわかるようなことがキューブの中にあります。また、あるキューブでは、おみくじみたいになっていて、それを振ると、やわらかいとか、優しいとか、かたいとか、そういった言葉が出てきて、それを実際に使うことによって、作品を見るというものなんですね。これだと写真がちょっと微妙でわかりづらいんですけれども。

【鉄矢会長】　　アートに関して、何が質問されるかわからないけど、ちょっとだけわくわくしながら、偶然っぽいけど、実は選んでいるという。

【鈴木学芸員】　　そうですね。そういうものがあります。例えば、「やわらかい」というものが、おみくじで出てきたとしますけれども、そうしたら、じゃあ、１つ作品を見て、やわらかいものが何かあるかな、みたいなことを質問して、子どもたちが、やわらかいものを探してみんなで話していきます。「明るい」という言葉が出てきたら、何が明るいものがわかるかなとか、そういうことを探っていく１つのツールみたいなものなんです。

多分、私たちもそうだと思うんですけれども、作品を見てもどう見たらいいのかということがなかなかわからないと思うんです。

【鉄矢会長】　　漠然と見るんじゃなくて、切り口となるキーワードを与えてあげる。

【鈴木学芸員】　　そう。切り口のキーワード。そういったものを与えて見ていくという感じです。

紙で作ったｉＰａｄのおもちゃも使用しました。ｉＰａｄのアイコンが、作品の一部になっていて、該当するものを見つけたらクリックして…。

【鉄矢会長】　　ビンゴみたいな。

【鈴木学芸員】　　そうです。こうやってみんなで遊んでいくというものだったんですね。

【鉄矢会長】　　このビンゴみたいなものって、つまりは、この「風景への視線」に出ている作品をつくった、オリジナルのもの。

【鈴木学芸員】　　そうです。オリジナルのものなんです。

【鉄矢会長】　　つくってくれているわけですね。

【鈴木学芸員】　　そうですね。

それから、今回、風景に関する絵本の読み聞かせをしたのですが、さらに関連する絵本の一覧を可愛らしい冊子にまとめて、お客様にお配りしました。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

【上原委員】　　美術館というのは、どういうものを展示するのかなと、ふと思いました。絵画ですよね。ところによっては所蔵とか、彫刻、デザイン的なものもあるかもしれません。今回、チェンバロの演奏と歌でしたよね。

【鈴木学芸員】　　はい。

【上原委員】　　ここではほかにという。絵の展示以外、版画なんかもあるでしょうけど、どういうものが、実際、今までやられてきたんでしょう。そしてまた、どういうものだったら、展示というか催しができるんでしょうか。

【鈴木学芸員】　　これまで当館がやってきた展覧会ですと、やはり当館のコレクション自体が中村研一の作品が中心ですから、やはり中村研一にかかわるような近代の日本美術、洋画などを中心とした作品の展覧会をしてきました。例えば、中村研一と交流があった画家などの作品を石川県立美術館とかから借りたりしています。また、それ以外には、NPO法人アートフルアクションと連携した現代美術系の展示をしたこともありました。

あと、昨年は、串田孫一の作品を展示などしていますので、基本的には近代日本美術の展示を中心としていますけれども、そのときによって、今回のようなイギリスの風景画のような作品を展示することもございますし、また、現代美術の展覧会をしたりもしています。

【鉄矢会長】　　小さな美術館というのもやってませんでしたか。

【鈴木学芸員】　　やっていますね。

【鉄矢会長】　　そういう意味では、相手が小さい美術館で、いいものを、モジュールを持っていると。

【鈴木学芸員】　　そうです。地域の美術館の興味深い、すぐれたコレクションを紹介する展覧会も、これまで開催しています。

今回、風景画の視線で、郡山市立美術館からお借りしたんですけれども、やはりこの郡山市立美術館が、イギリスの風景画の名品を収蔵されていますので、皆さんにごらんいただきました。

【鉄矢会長】　　多分、質問の意図は、展示しているというジャンルの中で、ギャラリーコンサートは、どんなふうな位置づけなのかという。

【鈴木学芸員】　　ギャラリーコンサートは展覧会事業の一環でもあります。例えば、去年の串田孫一展でも、やはり展示室でコンサートをしました。多摩のカーニバルの展覧会

では、やはり太鼓をたたいてみんなで楽しむような、コンサートというか、ワークショップのようなイベントもありました。

今回は、もともとは今回の風景画の視線の展覧会のときに、コンサートを当初行うという予定だったんですけれども、諸事情があり、難しくなったということもありまして、年をまたいで、１月に開催しました。

また、今回のコンサートは、喫茶棟が３月から開くということもありますので、それに合わせたプレオープンという意味も含めたニューイヤー･コンサートというような形です。

【鉄矢会長】　　チェンバロは、近代イギリス風景画というのとイメージを重ねていくのがあったのでチェンバロという話。

【鈴木学芸員】　　そうですね。当初はそういう予定でした。ただ、ちょっとずれてしまいましたので、少し意味がわかりにくくなってしまったかと思うんですけれども。

【鉄矢会長】　　背景。前回のときにも背景、この議事録にも書いてあるように、背景何もないところでやるんですかという質問をしたのも、同じ話なのですが。

【鈴木学芸員】　　このように、中村研一にかかわるパネル、写真類を出したりとか、また中村研一の作品を画像、映像で映したりしていましたので、必ずしも展示室は、空っぽの状態ではありませんでした。

コンサートでは、中村研一の生きた時代にかかわるような日本の歌曲なども歌っていただいたりしました。

【事務局（吉川）】　　ギャラリーコンサートの感想が結構来ているんですけれども、おおむね、珍しく、皆さん、いい感想で、実は美術館を知らなかったという感想が結構あったんですよ。通りすがりに、こんないい美術館があって、この環境の中で、カウンターテナーとチェンバロで夢のようですというような意見もありましたし、ほんとうに知らなかったから、ぜひまた来たいということもありましたし、年に１回ぐらい、こういうコンサートもしてもらえるとありがたいという意見もありましたし、知ってもらえるという意味では、とてもいい企画だったかなというふうに思いました。

音楽……。ここはあくまで美術館なので、音楽だけではないですけれども、そういうことをきっかけに、ここを知っていただいて、展覧会も、また見に来ていただけるというふうにつくられていければよろしいかなというふうに思います。

【上原委員】　　音響効果というんですか。やっぱり美術館の展示場で、それをするのに、ちゃんとほんとうに……。

【事務局（吉川）】　　実は音楽家さんたちは、ここでぜひやりたいと言うんです。実は、すごく音響がいいそうなんです。

【上原委員】そうですか。

【事務局（吉川）】　　はい。偶然なんですけど。

【平岡委員（館長）】　　音響というか、残響が。簡単に言うと、音が響くんですね。ですので、普通の会議室とか、そういうところよりは音の響きがいいので、大きなホールとはまた違うところの意味での。

【事務局（吉川）】　　上のホールの人に怒られちゃいますけど、実は、去年、弦楽四重奏を串田展のときにやっていただいた市民オケの方からも、上より音響が、ここがいいわって言って、すごく喜んでました。

駅前の交流センターの小ホールよりは……。大ホールは、ものすごく音響がいいんですけど、小ホールよりかは、全然すばらしいという。

【平岡委員（館長）】　　残響がどのくらいがいいかというのも、多分、演奏される方々によって違うと思うんです。だから、例えば、大聖堂みたいなところでやれば、かなり音響は大きいとは思うんですけれども、それが演奏される方にとっていいか悪いかというのもあると思うんで、たまたま、多分ホールよりは残響が長かったのではないかなというふうに思うので、天井の高さとか、つくりからいってそうなんですけれども、そういうところでは、ア・カペラも今回ありましたし、そういう意味では、今回出演された方にとっては、いい環境っだったのではないでしょうか。

【鉄矢会長】　　ライブとデッドといって、音がどれだけはねるか。床があれで、壁に、フラットですから、歌い手さんは、よく自分の音が聞こえると気持ちいいらしいです。だから、そんなに大きいホールだと、自分の歌った声が返ってこなくて、ずっと。

【事務局（吉川）】　　すごく気持ちよく歌える環境だそうです。それは、だから全然、非常に副産物なんですけれども、また、展示がされていると、ちょっと違ってくるのかなとは思いますけれども。

【鉄矢会長】　　基本的にいいんでしょうね。ちっちゃくて、環境が。

【事務局（吉川）】　　だから、そればかりではないですけど、ひとつ美術館を知っていただくというコンテンツとしては、よろしいかなと。

【鉄矢会長】　　一応、基本的には何でもいいよという美術館ではなく、やはり中村研一にかかわることをやっているよという形で……。

そのほか、何かご質問ございますでしょうか。

では、なければ、次第の１の（２）今後の開催予定の展覧会等について、事務局から説明をお願いします。

【中村学芸員】　　では、次回の展覧会に関しまして、私のほうから報告させていただきます。

次回の展覧会ですけれども、次のところ、年度の最後に所蔵作品展を行う予定です。

会期ですけれども、これは仮という形で、３月２５日、年度の終わりのところから始まって、５月１４日までという期間を想定しています。

５月１４日までという形にしているのは、この日が、５月１４日が中村研一の誕生日だからで、こちらの美術館で開館以降、この日を無料開館日に設定していて、多くの方が来館してくださるので、せっかくだから所蔵品の作品展ではありますけれども、誕生日まではやって、最後の日、無料開館日という形で締めるというような期間を想定しています。

所蔵作品展ですので、テーマとしては、中村研一のものがほとんどになってくるわけですが、今回、所蔵作品の中でも特に考えていますのは、ここが開館して以降、皆様に寄贈していただいた作品をまとめて見る機会ってあまりなかったので、今回、１０周年記念の最後ということですので、今まで開館して１０周年の間の中で、どういった作品が寄贈されてきたのか、つまりこの館にやってきたのかというのを少し見てみたいというのを所蔵作品展のテーマに設定しています。

どういったものが美術館にやってきたのかということと、それから、その所蔵作品を使って中村研一の画業を振り返るというような２つ重ねて、寄贈作品をできるだけ中村研一の年代に沿って並べて見ていくということをやりたいというふうに考えています。

もちろん、寄贈作品だけで展示室を埋め尽くすほどの点数はないので、適宜、ほかの作品を加えていく形になります。ただ、まだちょっと、今年寄贈の申し出をいただいた作品については、３月２５日までには申し出の手続が終わって、ここの機会で初めてお披露目できる予定ですので、そのあたりをできるだけ周知していければなというふうに考えています。

また、ワークショップも、今、考えているところです。決まり次第、そこは皆さんにお知らせできればというふうに考えています。

ということで、今後の開催予定に関しましては、年度の最後であと１つという形で、以上になります。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

何かご質問等ありましたら、お願いします。

年度をわたるのは、実は年度で学芸員の方も、一応、契約は１回切れるんです。違いませんね。

【鈴木学芸員】　　はい。

【鉄矢会長】　　１回切れて、新規契約になるんですね。

【鈴木学芸員】　　はい。そうですね。

【鉄矢会長】　　このことを一緒に切ってしまうと、実は皆さん、もう宙ぶらりんな状態のまま､次の企画ができないということと､美術館としての流れもなくなってしまうので、数年前から、出だしのほうから展覧会を年度わたりでしっかりやっといたほうが、４月のときに閉じたままで美術館が始まるということがないということで、この動きをしています。ですので、今、皆さん、計画しながら、私の来年はどうなるのというふうに思いながらも、こうやらなきゃいけない立場なんですが、オフィシャルな形で　　。

【中村学芸員】　　はい。そうですね。

【鈴木学芸員】　　そうです。

【鉄矢会長】　　そこを何とか変えたいというのは､少し条件化できないかとかいう話が、ずっといつも、あり方みたいな形で出てくると。という意見です。

【鈴木学芸員】　　はい。

【鉄矢会長】　　ほかにご質問、意見等ありましたら。

【川崎委員】　　質問なんですけど、美術館の閉まっている期間についてなんですけど、昨年だと５月１５日に展示があって、８月１３日、次スタートで、今回も１２月１８日の次、３月２５日で、３カ月ずつ開いてるんですね。半年閉まってるんですけど、その３カ月というのは、結構詰めることできないんですか。

【鈴木学芸員】　　その期間というのは、基本的に次の展覧会の準備をしていて、もうご存じのように、学芸員は非常勤の私たち２人ですので、一定の水準を保つ展覧会を行うには、ある程度の日時をとらなければなりません。例えば、ほかの美術館のように常勤の学芸員がたくさんいれば、そういうことは可能かと思うんですけれども。

【平岡委員（館長)】　　あと、多分、３カ月というのは、今回いろいろな要因があって開いてしまったんで、多分、内容によっては２カ月から３カ月ぐらいなんですね。

【鈴木学芸員】　　そうですね。暫定予算の影響を受けましたので。

【鉄矢会長】　　出だしの予算が、４月に予算が決まってる場合と、決まってない場合と。

【鈴木学芸員】　　そうですね。

【平岡委員（館長）】　　実は、８月の展覧会は、ほんとうは７月２０日ぐらいからスタートする予定で準備はしたんですけど、本準備に入るタイミングで、ちょっと予算が不安定になってしまったので、その後、後ろがきゅうきゅうになってしまって、それで変に展覧会と展覧会の間隔が開いてしまったということもあるんですけど、やっぱり展覧会の規模とか調整する相手方との関係とか見ますと、やっぱり２カ月から３カ月というような準備期間を、準備もありますし、終わった後のこともあるので、そのための期間は、開けてもらっているという形になっています。

【中村学芸員】　　やはり焦って開いて借用した作品に何かトラブルがあったりすることは、こちらでは絶対に避けなければいけないことです。そういう意味では、焦って開けて、そういうリスクを増すよりは、ちゃんとしっかり準備をして、焦らずに、休館時間をしっかりとって、万全な体制でスタートするべきだと思います。そういった意味では、細切れに開けられるようにするよりは、作品をちゃんと管理できる体制を整えて、焦らずに開けるというふうになっていまして、それをやはり２人でやっていくと、２カ月から３カ月というような休館期間をとるというような形になっています。

【鉄矢会長】　　はい。

ほかにご意見、ご質問ありましたら、お願いします。

では、次に、次第の第２、平成２９年度事業予定について、事務局からお願いします。

【事務局（永井）】　　はい。

現時点で来年度の予算は確定していませんが、先ほど学芸員からご説明しましたとおり、次回展覧会は、３月２５日から５月１４日までの開催予定となっています。

その後については、例年同様、企画展を２回と所蔵作品展を１回程度開催する予定です。

そのほかの事業についても、企画内容は別としまして、例年並みで行う予定です。よろしくお願いします。

【鉄矢会長】　　はい。何かご質問等ありましたら、よろしくお願いします。

茶室に関しては。茶室って、今、５０年たってるんでしたっけ。

【事務局（吉川）】　　たってます。

【鉄矢会長】　　登録文化財にしたらいかがなんでしょうか。

【事務局（吉川）】　　登録文化財にしたくて、教育委員会のほうに働きかけまして、一応、

教育委員会のほうの理科大の先生が両方見てくださっているんですね。うちとしては登録文化財にしたいんですけれども、有形登録ですね。

【鉄矢会長】　　はい。

【事務局（吉川）】　　なんですけど、やっぱりそれはなかなか順番があって難しいんではないかというような話を、教育委員会のほうからいただいていますので。

【鉄矢会長】　　喫茶棟も含めてなんですか。

【事務局（吉川）】　　両方含めて。

【鉄矢会長】　　それは難しいかもしれない。

【事務局（吉川）】　　佐藤秀三の作品なので、できれば両方一緒にという形でいきたいんですけれども。

【鉄矢会長】　　でも、あれですよね。５０年以上たってる茶室が小金井市に幾つ残っているかって話ですよね。

【事務局（吉川）】　　これしかないと思うんですけどね。

【鉄矢会長】　　それで希少性は随分あるんですよね。わかりました。

ほかにご質問等ございますか。

では、３つ目は意見交換等ということになります。皆様から、委員の皆様、何かありましたら、よろしくお願いしますというか、一言ずつお願いいたします。

上原委員。

【上原委員】　　前回、ゴッホ・ゴーギャン展のチケットを買って、せっかくの機会だからと思って、行ってきました。記事なんかでは、ほんとうに平日でも長蛇の列というか、すごく盛況だと聞いていたんですが、やっぱりそのとおりでした。なかなか、やっぱりよかったです。

そして、たまたま小金井の知り合いの、並んでいたのがいまして、話していましたら、その方は６５歳以上で、そういう、安く、１,０００円ぐらいで買えたのかな。事前に買っていたので、チケットも並ばずに済んでよかったですって言われていました。

ですから、この小金井市の中村美術館ですか、やっぱり６５歳以上の方は、そういう割引だとかあればありがたいなと思うんです。

というのも、今、どの世帯でも、貧困って変だけど、所得減っているし、生活も苦しくなってきています。そういう中で、無料だとか割安だとかいうのが、私もそういうときに、さっと何かに行くんですけど、やっぱり人が多いし、そういうのを待っている、期待して

いるというのも感じていますので。というところです。はい。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

川崎委員。

【川崎委員】　　市報で、この前も喫茶棟事業者が決まったというお知らせがあって、ご近所とか、お友達も、すごい楽しみにしている人が多いんですけれども、これにも何か、美術館や喫茶棟、茶室と連携して、美術館の企画とか運営をしていきますというようなことが何となく書いてあるんですけど、何か具体的に決まっていることがあるのかなというと、お互い、喫茶棟、美術館の来館者とか来店する人を増やすために、どっちかに行きたい人は、美術館に行きたい人は喫茶棟の何かがちょっと割引になるとか、カフェを使った人は美術館が割引になるとか、セットのチケットみたいなのとかがあれば、相乗効果で人が増えるんじゃないかなというのを思ったんですけど、何か対策というか、企画が今後あればいいなと思っています。

【事務局（吉川）】　　一応、公募したときに、どうここと連携していくのかということのアイデアは全部事業者さんから出していただいて、一番、ここと協力してやれそうな事業者さんに決まったんですね。今まであまりにも喫茶棟と美術館は離れてというか、あまり連携していなかった。喫茶棟は喫茶棟、美術館は美術館でやっていて、お休みの時期とかも全部ずれてましたし、それはちょっと違うなという部分が私どもの中でもありましたので、それぞれの運営はそれぞれの運営なんですけれども、今おっしゃってくださったように、じゃあ、サービスをどこのところでそろえていくのかとか、あとはうちの展覧会に合せて、じゃあ、喫茶棟では何をやろうかとか、やはりそこは研一さんのおうちでしたので、喫茶棟のほうも研一さんの、これはちょっとまだ、これからどうなるのかわからないんですけれども、研一さんの食生活なんかのほうも少し充実したメニューづくりを考えたとかいうことは、そのプレゼンのご提案の中でも出てましたので、うちの学芸員が行ってトークをやるとか、そのような、向こうから何か、何がしか、さっきのような、例えば、チケット半券見せれば、少し何かサービスを受けられるとか、それは今、決まった話ではないんですけれども、そのようなアイデアはいただいていますので、今までよりは、もうちょっとトータルとして、美術館と喫茶棟を楽しむという形にはなっていくかと思っております。そのようにお互い協力し合って、相談していこうかなというふうには思っておりますので。

なかなか、前の喫茶棟のイメージが多分あると思うので、運営が軌道に乗るまで、どれ

ぐらいかかるのかなというところは、ちょっとお互い心配なところではあるんですけれども、やはり飲食ができるところが１カ所あるという、この辺、何もないので、歩いて、美術館だけではなくて、緑地を散策する方にとってもいいかなと思っています。何かがきっかけになって、美術館に来てもらえれば、それはそれで効果があることかなと思っています。

【平岡委員（館長）】　　おっしゃっていただいたようなあたりの連携も、多分、おいおい相談できればなという話は話の中では出ていましたので、いろんな連携を、これから考えていって、お互い、うまく宣伝できるようにしましょうというような感じで今やっていますので、いただいたお話も含めて、また相談する機会も、一緒にやっていければと思います。ありがとうございます。

【鉄矢会長】　　小林委員。

【小林委員】　　小林です。本日、ありがとうございました。

いつも同じ話になってしまって大変恐縮ですが、鑑賞教室等、教育普及事業をいつもありがとうございます。事前授業をやっていた学校もあって、大変効果的な事業をしていただけたんではないかなと思います。

また逆に、美術館から学校への要望等ありましたら、私のほうにご連絡をいただければ、きちんと周知をして、より子どもたちにとって成果のある普及事業をしていただきたいなと思っていましたので、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

平岡委員。

【平岡委員（館長）】　　一応、じゃあ、すいません。

立場的に、いつもどうかなと思いながら、いっぱいしゃべっているんですけど、一応、今回、学芸員からの話があったんですけれども、初めて海外の作家の方を中心に取り上げる展覧会ということで、私もこの職にいながら、実はあまりそもそも芸術系得意ではないですけど、新しい試み、かついい展覧会だったなというふうに思っていたのと、新しい客層というか、絵を開拓できたというか、今までにないお客様層が今回はすごい多かったというふうに聞いていて、年輩の男性１人というのがすごい多かったというふうに聞いています。ですので、そういうきっかけで、うちの館を知っていただくのは、すごいよかったと思いますし、今までにない方々の心をつかんだ展覧会でもあったなというふうに思って

いて、特に今回は、我々のほうではない理由によって、予算のことで、いろいろ、がたがたあったにもかかわらず、また、ちょっと人もここで交代があったにもかかわらず、すごく頑張った、成果が出た展覧会だなというふうに、思っていたりしています。

あまり古いデータはないんですけど、ここ五、六年ぐらいの過去の展覧会で比較をしますと、あくまでも１日平均になってしまうんですけれども、平成２４年のときにやった石川県美が１日大体四十数人ぐらいだったんですね。今回も大体４０人前後ぐらいだったので、このときの展覧会であったり、２２年の笹岡了一の新潟の新津美術館から借りてきた企画展、これよりは逆に１日平均の人数が上回るぐらいお客さんに来ていただいたというのは、やはり企画展として一定の成果が、お客さんの数からいってもあったなというのがありましたので、ほんとうに、学芸員含めて、よく頑張ってくれたなというのが私の感想です。

以上です。

【鉄矢会長】　　はい。ありがとうございます。

私、連合美術展、見に行って、写真美術館と小学校が連携しているんだと言いながら、あれ、はけの森はどこかに出ているかと思ったんですけど、出てたんですか。

【平岡委員（館長）】　　連合作品展は、教育委員会主催のもので、美術館の教育普及事業は、美術館の主催ということもあり、なかなかそこまでの連携は難しく、課題も多いと思っています。

今回、職場体験のほうも、ちょっと紆余曲折があって、たまたま学校さんのほうの希望の日と、うちの展覧会やっている日が合わなかったんで、極力受けようというふうにして受けてくれて、結果として１校は、先方さんの都合で、一旦は中止になったんですけれども、やはり展覧会をやっていないときの３日間の対応ということについて、ハードルというか、準備がまた大変だったので、やっぱりこちらも十分な対応ができるような条件は、逆に学校さんには申しわけなかったとしても、今後はお断りするようなことも含めて、もうちょっと考えたほうがいいかなというような話も中でしてもいたので、やはり美術館としてのクオリティーを維持しつつ、いいものを提供していく難しさというのは常にあるのかなという話はそのときも出ておりました。

【鈴木学芸員】　　学校側の希望する内容というのを、いろんな状況の要因で、こちらで提供できないときに、どういうふうにすり合わせていくのかというのは、やっぱりすごく難しいし、学校の制約というのもあるし、こちらの制約というのもあって、そこのなかな

か、折り合いの妥協点というところが見えてこないなというのは、すごくやっていて、もどかしく感じるところでもあります。

【鉄矢会長】　　両方ともよかれと思って始めたはいいけど、やめられないというのも怖いです。始めるのはいいけど、それは継続しなきゃいけないみたいになると、ただただ雪だるまのように、どんどんどんどん膨らんでいくだけなので、やめるとか、１回限りとか、やるときは、やめるのは、こういうふうにやめるよって僕らもやりますけど、５回が限度ですとか。

はい、ありがとうございます。

ほかにございますか。

では、なければ、最後、４番、その他ですが、まず会議録の校正について、事務局からお願いします。

【事務局（永井）】　　では、会議録の校正について説明させていただきます。

お手元に、前回、第３回の会議録の案をお配りしています。かがみ文のほうに記載されていますとおり、訂正などございましたら、お手数ですけれども、２月１７日の金曜日まで、コミュニティ文化課までお知らせいただければと思います。期限までにお知らせない場合は、訂正なしとさせていただきますので、よろしくお願いします。

前回もお話しさせていただきましたが、皆様からの訂正などを反映した上で、会長一任扱いとして、事務局にて確定させていただきます。その後、市のホームページにも掲載させていただきます。

以上です。

【鉄矢会長】　　はい。会議録の確認については、今の説明のとおり、よろしくお願いいたします。

続いて、次回の運営協議会の日程について、どなたかご意見はありますか。

【平岡委員（館長）】　　毎回、私のほうで口火を切っているので今回もということで、例年、次の開催は５月ということになります。今回、できれば展覧会のタイミングがいいかなという思いと、なぜか火曜日に行っていることが多いようですので、その点を勘案しますとゴールデンウイーク明けあたりかなというふうに思っております。

ただ、きょう、実は学芸顧問の薩摩と山村先生がご欠席なものですから、その２人の予定も気になるなというところがありますので、もし、よろしければ、仮の予定として決めさせていただいた後、調整の上という形だとありがたいと思っております。という形にな

りますと、5月９日の火曜日というのがカレンダー上は有力視されますが、その後の１６、２３あたりにやっているところもあります。

～調整～

【鉄矢会長】　　では、第１候補、４月２５日火曜日１８時３０分から、第２候補が５月１２日金曜日の１８時３０分からということで上げておきながら、山村副委員長と学芸顧問の薩摩先生の意見と合わせて確定していくと。その辺の確定しなかった場合は、事務局からまた連絡が来るということでお願いします。ご協力、お願いします。

そのほか、何かありますでしょうか。

なければ、以上で、はけの森美術館運営協議会を終了します。お疲れさまでした。

―― 了 ――